

令和4年1月14日

## 富山県美術館—デザイン・コレクション展 第4期の開催について



富山県美術館では、1月13日(木曜日)から4月末頃まで、3階の展示室5と展示室6において「デザイン・コレクション展 第4期」を開催しておりますので、ご案内いたします。

### 概要

会期：2022年1月13日(木曜日)～4月末頃予定

場所：富山県美術館3階 展示室5、6

展示室5／デザインコレクション

展示室6／瀧口修造コレクション

展示室6／シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

### 展示内容と見どころ

## ■展示室 5 / デザインコレクション

### 「文字とポスター」



永井一正 《LIFE》 2021 年

### ★みどころ

当館のポスターコレクションからの展示、今回のテーマは「文字とポスター」です。ポスターは、私たちに様々な情報を伝える媒体であるとともに、言葉を超えて視覚的にメッセージを伝えるものでもあります。そのポスターにおいて、文字はグラフィックデザインを構成する重要な要素として、情報を伝えることにとどまらない役割を果たしています。私たちがパソコンなどで文章を打つ時に用いているフォント(書体)は既成のものですが、グラフィックデザイナーたちはポスターの上で個性的なフォントを考案したり、文字の形そのものの面白さを見出すなどの多様な表現を試みています。活字、独自に作られたフォント、手書き、見慣れない昔の文字など、国内外のポスター 30 点を通して文字そのものの面白さや表現の豊かさを楽しんでいただければ幸いです。

併せて今回は、グラフィックデザイナーの永井一正氏が当館のために毎年制作しているポスター「LIFE」の最新作 3 点の紹介とともに、椅子コレクションも一部展示替えを行いました。

## ■展示室 6 / 瀧口修造コレクション

### 「瀧口修造の肖像 Part 4 荒川修作」



荒川修作 《知覚の肉》 1958 年

## ★みどころ

昭森社から発行された雑誌『本の手帖』1969年8月号は瀧口修造を特集し、親交のあった詩人、芸術家が瀧口に関する文章を寄せました。瀧口自身もそれまでの来し方を振り返り「自筆年譜」を執筆しています。また、雑誌冒頭には、瀧口自身が「瀧口修造の肖像」をテーマに、10名の芸術家に依頼して制作された作品が掲載されています。シリーズ「瀧口修造の肖像」では、この10名の作家(合田佐和子、岡崎和郎、松澤宥、池田龍雄、赤瀬川原平、中西夏之、野中ユリ、荒川修作、加納光於、藤松博)に焦点を当てます。

今期のPart 4は、このシリーズの最後を飾る企画で、荒川修作を取り上げます。荒川修作は、美術作品—絵画やオブジェを制作するだけでなく、「天命反転」という独自の思考を追求し、岐阜の養老天命反転地などの建築プロジェクトを実現、「死なないための」思考実験を展開したアーティストとして知られています。芸術、哲学、科学の総合を目指し、ニューヨークを中心に国際的に活躍した荒川の原点には、瀧口修造の存在がありました。瀧口の旧蔵作品を通して、荒川と瀧口の交流や当時の時代背景をうかがえる機会とします。

## ■展示室6/シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

### 「音楽家からの贈りもの」

シモン・ゴールドベルク(1909-1993)が愛蔵し、美代子夫人から2006年に寄贈された美術作品をご紹介します。



## ★展示作品

パウル・クレー 《遙か北の町》、ジャック・ヴィヨン 《レスリング》、ヘルベルト・バイヤー 《1966/39》、コンスタン・ペルメーケ 《テーブルの男》、ケーテ・コルヴィッツ 《哀悼 エルンスト・バルラッハを偲んで》、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ 《バルセロナ・チェア》、マリノ・マリーニ 《小さな糸状の馬》 《小さな曲芸師》

## 観覧料

コレクション展：一般 300 円(240 円)( )内は 20 名以上の団体料金

【次の方はコレクション展の観覧無料】

- ・ 小・中・高校生と大学生、70 歳以上の方
- ・ 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者  
(観覧料免除申請書の提出が必要)
- ・ 各種手帳をお持ちの障がい者の方者  
(手帳所有の方 1 名につき付き添い 1 名まで無料)

(※)詳しくは、富山県美術館ご利用案内（外部サイトへリンク）をご覧ください。

## コレクション展について

---

富山県美術館のコレクション展では、前身の富山県立近代美術館から現在までの収蔵作品を展示しています。年4回程度さまざまなテーマによる展示替えを行い、多彩なコレクションを紹介。当館2階の展示室1では絵画・彫刻を中心とし、3階の展示室5と展示室6ではポスターや椅子、富山県ゆかりの瀧口修造やシモン・ゴールドベルクのコレクションを展示しています。

**MAKE  
TOYAMA  
STYLE**  
BEYOND CORONA, WITH US

